

きょうだい構成が集団内役割意識に及ぼす影響

—親との関係性、性別の2つの観点から—

平成 17 年度入学
文学部人文学科人間科学コース
社会学・地域福祉社会学

平成 21 年 1 月提出

要約

本論文ではきょうだい構成の特徴について、親との関わりや性別との関係性から述べた上で、集団内役割意識に及ぼす影響について論じている。

まず第一章では家族の中におけるきょうだいの位置づけについて、きょうだいのもつ意味・効果を交えながら説明している。親子は大人と子どもの関係なので「タテ」の関係、友達同士は対等にあるので「ヨコ」の関係といわれている。しかし、きょうだいには年齢という上下関係があるのと同時に、気持ちはヨコ並びになっている。きょうだい関係は「タテ」の人間関係と「ヨコ」の人間関係から成り立っているので「ナナメ」の人間関係であるといえる。このように親子関係や友だち関係との違いを述べた上で、きょうだいが無二の存在であるということについて説明した。

第二章では先行研究をもとに、きょうだいの特徴についてまとめた。親との関係性から2人きょうだい、3人きょうだい、ひとりっ子に分けてその特徴を述べている。2人きょうだいについては、長子的性格と次子的性格それぞれを詳しく説明した上で、性の組み合わせによって見られる特徴についてもまとめている。

第三章では、役割意識について述べている。社会の中での人間を捉えるときに社会学では「役割」という概念がよく用いられる。人はそのつど社会的カテゴリーにおける役割を担って社会に登場しているということができる。その意味で、役割は個人と社会を媒介するものといえ、役割はパーソナリティと社会構造との接点となっている。こうして一般的に人は所属する組織や集団、社会から何らかの役割を期待される。集団や社会で一定の地位にある行為者が、その地位に付随した所与の役割を通じて受ける他者の期待や、彼が持つ、他者に対してのいかに行為すべきかについての規定をも含む概念を「役割期待」と呼ぶ。行為者が与えられた役割の内容に従って役割期待に応え、責任や義務を果たすために、自らが適当と考える仕方ですれを演ずることがまま見受けられる。これを「役割演技」と呼ぶ。「役割」、「役割期待」、「役割演技」という3つの概念から「役割意識」を説明している。

第四章ではきょうだい構成が集団内役割意識に及ぼす影響を調べるために実際に調査をおこなった。この調査の概要、質問項目の設定や全体の分析枠組み、分析の際におこなった変数の操作、仮説などを具体的に説明している。その上で、重回帰分析を用いて、仮説の検証をおこなった。「親との関わり方」、「グループ内における役割意識」、「個人における自発的意識」、「職業選択における重視点」という4つのカテゴリーに分けて分析をおこなっている。

第五章では今回の調査によって得られた知見と可能性についてあらためてまとめた。さらに筆者の思うこれからのきょうだい研究の展望を述べて、本論を締めくくっている。

目次

はじめに	1
第一章 きょうだい	3
第一節 家族の中におけるきょうだいの位置づけ	3
(1) きょうだいのもつ意味・効果	
(2) きょうだいと友人の違い	
第二節 きょうだい関係の種類	4
第三節 きょうだい関係の変化	5
第二章 きょうだいの特徴—先行研究から	6
第一節 親との関係性から見る2人きょうだい	6
(1) 長子的性格	
(2) 次子的性格	
第二節 性の組み合わせで見る2人きょうだい	8
(1) 「姉—妹」の組み合わせ	
(2) 「姉—弟」の組み合わせ	
(3) 「兄—弟」の組み合わせ	
(4) 「兄—妹」の組み合わせ	
第三節 親との関係性から見る3人きょうだい	11
第四節 親との関係性から見るひとりっ子	12
第三章 役割意識	14
第一節 役割	14
第二節 役割期待	14
第三節 役割演技	15
第四章 きょうだい構成が集団内役割意識に及ぼす影響についての調査	16
第一節 調査概要	16
第二節 調査対象者	17
(1) 大学生を選んだ理由	
(2) 属性	
第三節 分析枠組み	22
第四節 分析上の変数について	25
第五節 仮説	29

第六節 重回帰分析結果	32
(1) 仮説 1 の検証	
(2) 仮説 2 の検証	
(3) 仮説 3 の検証	
(4) 仮説 4 の検証	
第五章 まとめ	39
おわりに	40
参考文献・参考 URL	41
付録：調査票	